

「景観の未来を考える」

日時：2012年 2月10日(金) 13:30～17:45

場所：広島平和記念資料館 地下会議室(1)

広島市中区中島町 1-2

バス：平和記念公園／市内電車：中電前または原爆ドーム前

主催：アジア景観デザイン学会

共催：日本サインデザイン協会中国地区

広島パブリックカラー研究会

後援：広島市

参加費：一般 1000 円
学生 500 円

広島研究大会開催にあたって

アジア景観デザイン学会は、窯業系企業の研究会であった九州景観材料研究会を母体として2004年に発足しました。これまでの欧米主体の景観誘導に対して、アジアならではの評価基準や誘導方法があるのではないか、という課題に取り組んでいます。日本、中国、韓国で交互に研究大会を開催しており、それぞれの国でも活動を開始し、交流の窓口になっています。また、国連ハビタット、中国人居環境協会、福岡アジア都市研究所と共同で2010年に「アジア都市景観賞」を創設し、活動の輪が広がっています。もともと産官学が連携した研究会でしたので、行政や企業が多く参加する実践的でユニークな学会です。

この度は、2011年度に広島市がアジア都市景観賞を受賞しましたので、現地での成果を紹介していただき、東日本大震災の復興にあたってでも教訓を得られるのではないかと考え、広島市で研究大会を開催することにしました。

また、今、全国で景観条例の見直しが行なわれていますが、最新の考え方について情報交換をしたいと考えます。

堅苦しい学会ではありませんので、ぜひ気軽にご参加くださいますようお願い申し上げます。

13:30 開場

14:00 開会

開会あいさつ

佐藤 優 (アジア景観デザイン学会会長)

14:05 主催・共催紹介

アジア景観デザイン学会	事務局長	後藤良平
日本サインデザイン協会	中国地区代表幹事	高丸竜実
広島パブリックカラー研究会	理事	柏尾浩一郎

第1部「広島市のアジア都市景観賞受賞から」

14:20 ● 2011年アジア都市景観賞の結果について
田梅朋子 (福岡アジア都市研究所)

14:40 ● 復興プロセス
藤田昭彦 (広島市都市整備局都市計画課課長補佐)

15:10 ● 広島市の景観誘導
香川寛治 (都市整備局都市計画課都市デザイン担当課長)

15:40 ● 広島の心とデザイン——街の未来を描く
山田晃三 (株式会社 GK デザイン総研広島代表取締役社長)

16:10 休憩

第2部「景観デザインの課題」

16:20 ● 福岡市都市景観賞 25年の取組
續 孝之 (福岡市住宅都市局都市づくり推進部都市景観室長)

16:40 ● これからの景観誘導の指針
佐藤 優 (九州大学教授)

17:00 ● 環境ニーズに対応した駅前広場シェルター
若林良樹 (株式会社住軽日軽エンジニアリング市場開発部担当部長)

17:20 ● 都市の「減災」対策の提案
菅 英昭 (積水樹脂株式会社九州支店街路・住建営業所所長)

17:40 閉会あいさつ

坂井 猛 (アジア景観デザイン学会副会長)

2011年アジア都市景観賞受賞都市

広島市「原爆による廃墟からの都市復興」

広島市は、1945年8月6日の原爆投下により廃墟となり、「75年間は草木も生えぬ」と言われた状況から復興に立ち上がりました。翌年1946年10月には復興都市計画を決定し、1949年8月には、人類史上初の原爆被災の体験を通じ、恒久平和を希求する、広島独自のまちづくりを目指した「広島平和記念都市建設法」が制定されました。

この法律に込められた、世界平和のシンボルとなる都市広島をつくりあげるという理念のもと、「広島平和記念都市建設計画」を新たな都市計画として策定し、これに従い、恒久の平和を記念すべき施設である平和記念公園が整備され、原爆の悲惨さを今に伝える原爆ドームとともに、世界人類共通の記念施設として平和への願いを発信し続けています。また、1981年3月には、「広島市都市美計画」を策定し、景観に配慮した公共施設の整備、民間の建築物や屋外広告物の景観協議などにより、市民・事業者と市が協働して景観形成に取り組んで来ました。

このような取組の結果整備された、平和と復興のシンボルである幅員100mの平和大通りや、市内中心部を6本の川が流れる「水の都」広島を彩る河岸緑地、アースカラーのビル群などが、現在の広島の景観を際立たせています。



被爆直後の平和記念公園周辺

撮影：米軍／提供：広島平和記念資料館



現在の広島市全景

提供：広島市

Spirit of Design

広島の こころとデザイン



数十万年前の「道具」の誕生は、ヒトを自然から切り離し「不自然」に生きるという宿命を人類に与えた。この道具は技術をもって進化し、クルマから建築、都市や社会ネットワークまでも構築してしまった。人類の進化は道具の進化と同義である。

「都市」はそんな不自然な人類が快適に生き続けるための、高い利便性に支えられた、極めて安全な「場」のはずだ。この場所が、原爆という道具によって一瞬に壊滅した。文明の災禍のみならず、自然の猛威もときに都市を破壊し、また新たな都市を再生させる。

繰り返される破壊と創造。人は何を信じてこの都市に住もうとするのか。利便性と安全性の追求が、果たして僕らの理想の場を生むのだろうか。「安心」して暮らす-----そのために必要なものは、かつて決別した「自然」ではないか。自然を思考や暮らしの中心に置くこと。道具が身体の一部であるように、人も自然の一部であることを、都市はもっと考えてみた方がいい。広島は想う、いま景観に「いのち」を吹き込もう。



GK-DSH

発表者：山田晃三／やまだこうぞう
株式会社GKデザイン総研広島代表取締役
株式会社GKデザイン機構取締役
日本インダストリアルデザイナー協会理事
日本グッドデザイン賞審査委員

街の未来を描く

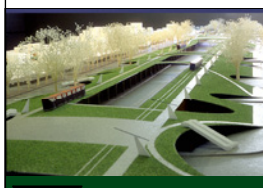
1



「明日に向かって走れ」

1995年新交通システム「アストラムライン」が開通した。6年の歳月をかけた総合デザインの思いは何か。

2



「75年間草木も生えない」

平和大通り2020年構想「グリーンベルベット」全長4キロの壮大なモニュメントは世界の広島を描く。

3



「サナギから蝶」

2000年、超低床路面電車「グリーンムーバー」が登場。なぜ、この広島に12編成ものアゲハ蝶が舞うのか。

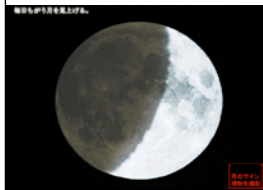
4



「子どもの視線」

ボンバス」は子どもたちにファンが多い。子どもたちはちゃんとモノには心があることを知っている。

5



「月のサイン」

駅前の釣具屋の屋上に、月のサインがある。地球よりも、「月」が意味を持つ時代を迎えているように思う。